

領域 C 読むこと

じゅんじよに 気をつけて読もう

教材名「たんぼのちえ」 光村図書二年上

執筆 福岡県北九州市立折尾西小学校教諭 新開麻里
編集委員 文部科学省教科調査官 大塚健太郎
福岡県北九州市立小石小学校校長 武藤佐予

年間指導計画

- 4/5月 じゅんじよに気をつけて読もう
ていねいに かみうして きょうくして
お話を読んで、しよかいしよ
- 6/7月 しもんをあつて、くわくをえよう
そそつたことを、重ゆきであわぢ
- 8/9月 読んだことを話そう
せつめいのかたの気をつけて書づ
- 10/11月 みんなで話そうなげよう
だじなこばに気をつけて読み
分かつたことを知らせよう
- 12/1月 ままりに付けて、お話を書もう
つなえたいことをあて、はっぴよしよ
読んて、かじたとを伝え合おう
- 2/3月

1 単元で付けたい資質・能力

① 身に付けたい資質・能力

本単元では、時間的な順序などを考えながら内容の大体を捉えて読む力を育成します。そのために、時を表す言葉に着目し、事柄の順序の関係を考えながら、たんぼの様子や「いつ」「どんなちえをはたらかせているのか」ということを捉えることができますようにします。

また、文末を意識しながら理由を表す言葉を見付け、「それぞれのちえにはどんなわけがあるのか」を捉えることができますようにします。

② 言語活動とその特徴

本単元では、たんぼのちえのなかで、いちばん賢いと思うものを選び、その「ちえ」と「わけ」、「自分が思ったこと」を伝え合うという言語活動を設定します。ちえを一つ選ぶためには、四つのちえを比べる必要があり、文章全体を読み返すことにつながります。

また、自分が文章を読んで、何が分かったのか、どんなことを考えたのかを整理することができます。

指導事項：(知識及び技能)(2)ア

(思考力、判断力、表現力等)C(1)ア、ウ言語活動例 ア

2 単元の展開(9時間扱い)

次 時 主な学習活動

三	二	一
8・9	3～7	1・2
<p>⑧ たんぼのちえのなかで、いちばん賢いと思うところ、そのわけを選び、思ったことをカードに書く。 ▼アイデア3</p> <p>⑨ 書いたカードを読み合い、自分の考えとの共通点などを伝え合う。</p>	<p>⑦ 文章全体を読み、たんぼのちえとそのわけについて、整理してまとめる。 ▼アイデア2</p> <p>④⑤⑥ たんぼが、「いつ」、「どんなちえをはたらかせているのか」、また、「ちえにはどんなわけがあるのか」について、文末表現に着目しながら読み、たんぼのちえとそのわけをまとめる。 ▼アイデア1</p>	<p>①② 今までの説明的な文章の学習をふり返ったり、たんぼについて知っていることを出し合ったりして、「たんぼのちえ」を読み、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>学習課題 じゅんじよに気をつけて読み、分かったことや思ったことを伝え合おう。</p>

アイディア1 順序の関係を捉えるための話し合う活動

ここでは、言葉と挿絵を書いたカードをばらばらに置き、正しい順序に並び替える活動をします。カードには、たんぼの様子を表す一文を書いておきます。

グループごとに話し合いながら並び替え、その理由も出します。この発動を通して、時を表す言葉に着目し、順序の関係を捉えることができるようになります。

たんぼの様子が変わっていく順に、カードを並び替えましょう。また、なぜそうしたのか言いましょう。



グループでのカードの並び替え

①春になると、たんぼの黄色いきれいな花がさきます。

「二三日たつと」とあるから、この次だと思えます

②二三日たつと、その花はしぼんで、だんだん黒っぽい色に……。



やがて、花はすっかりかれて、……

……

時を表す言葉を見れば順序が分かるね

アイディア2 文末表現に着目して、必要な情報を選び出す活動

初発の感想や疑問などから、「なぜ、そんなことをするのだろう」という問いを大切に、「一つ一つのちえのわけをはっきりさせたい」という意欲を高めます。

また、それぞれの「ちえ」と「わけ」を見付ける際は、文末に着目する読み方に気付くことができるようになります。

本教材では、それぞれの段落で、「——のです。」「——からです。」という表現で理由付けされています。このような文末表現に着目した読み方は、今後、説明的な文章の内容を捉えるときに生かすことができます。

「なぜ、こんなことをするのでしょう。」「のわけを書きましよう。」



「ちえ」と「わけ」を書いたノート例

ちえ それまで、たおれていた花のじくが、またおき上がります。

「からです。」とあるから、これは「わけ」かな



わけ 「なぜ、こんなことをするのでしょう。」

ほかの「わけ」を表す文も「のです。」や「からです。」となっているよ。文の終わりの言葉に気を付けて読むと、「わけ」を見付けることができますね

アイディア3 読んで分かったことや思ったことを伝え合う活動

ここでは、いちばん賢いと思った「ちえ」を選び、前時までに見付けた「わけ」と一緒に文章から書き抜きます。また、それについて思ったことをカードにまとめ、友達と伝え合うことができるようになります。

思ったことを書くときには、使える語彙を示したり、新たに見付けた表現を語彙表に加えて掲示したりすることで、語彙を広げることができるようにしましょう。

集めた言葉をまとめた掲示

「思ったことを書くときのことば」
 ・ふしぎだと思いました。
 ・おもしろいと思いました。
 ・もっと知りたくなりました。
 ・すごいと思いました。

「いちばんかしこいと思ったちえ」を選んで、友達と伝え合いました。



ちえ しめり気の多い日や、雨ふりの日には、……

私が「いちばんかしこい」と思うちえは、これです

わけ わたし手がしめつて、おもくなるよ、たねを……

僕もこの「ちえ」がいちばん面白いと思います



思ったこと 晴れの日と雨の日で、わたしのらっかさんが……

領域 B書くこと

ていねいにかんさつして、きろくしよう

教材名「かんさつ名人になろう」

光村図書二年上

執筆 福岡県九州市立今町小学校教諭 山田美希
 編集委員 文部科学省教科調査官 大塚健太郎
 福岡県北九州市立若園小学校校長 城戸祥次

年間指導計画

4/5月	じゅんじよに気をつけて読もう
6/7月	ていねいにかんさつして、きろくしよう お話を読んで、しようかしよう しゅもんをしまつて、くわしく考えよう
8/9月	読んで考えたことを話そう そぞうたことを、喜ばせあわわろ
10/11月	みんなて話をつなげよう せつめいのしかたに気をつけて書こう
12/1月	まとまりに分けて、お話を書こう だじなことはに気をつけて読み 分かったことを知らせよう
2/3月	つたえたいことをきめて、はつしようしう 読んで、かんじたとをたえあわろ

1 単元で付けたい資質・能力

- ①身に付けたい資質・能力
 経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めて文章を書くことができるようになります。ここでは、観察の視点を知り、対象をくわしく観察することで事実や気付きを得て、事柄の順序に沿って簡単な組立てを考えて書く力の育成をめざします。
- ②言語活動とその特徴
 本単元の言語活動は「観察したことを記録する文章」を書く活動です。そのためには、観察するものの特徴を、五感を通して観察し、くわしく表現することが大切です。例えば、「小さい」より「手のひらにのるくらいの大きさ」のほうが、大きさが読み手に確実に伝わります。また、友達の文章を読んで、くわしく伝わる表現のしかたや的確な言葉に自ら気付くことができるように、交流の場面も大切にします。実際に観察記録文を書く際には、付箋にメモをしたなかから内容を選択し、簡単な組立てを考えます。

まず、観察の視点に沿って付箋を整理します。そして「知らせたい順」「段々くわしくなる順」「驚いた順」など、子供たちが自分なりに順序を考えることができるようにします。

単元のまとめでは、単に書かれた内容について感想を出し合うだけで

2 単元の展開(9時間扱い)

次時 主な学習活動

なく、自分の観察記録と比較しながら書き表し方の工夫について感想を話し合うようにするとよいです。

指導事項…(知識及び技能)(1)オ
 (思考力、判断力、表現力等) B(1)ア・イ 言語活動 ア

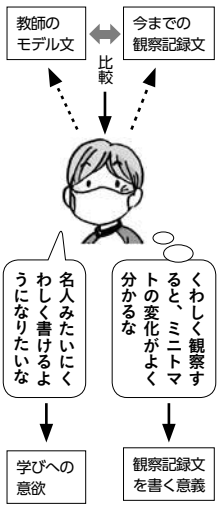
三	二	一
8・9	2～7	1
⑨自分の観察メモや文章を読み返し、観察記録文は時間の経過を追って書き続けていくと、変化の様子がよく分かることを知り、学習をまとめる。	⑧書いた観察記録文を友達と読み合い、互いの文章のよいところを伝え合う。 ⑦観察したことが読み手に伝わるように書けているか読み返す。 ⑥観察したものの様子がくわしく分かるように、付箋を使いながら順序を考えて観察記録文を書く。 ⑤観察したものを基に友達と話し合い、観察記録文に書く内容を決める。 ④前時までに観察したことを基に友達と話し合い、観察記録文に書く内容を話し合う。 ③自分が観察したいものを決めて、気付いたことをメモする。 ②教師のモデル文や教科書の作例から「かんさつ名人」がどんなところをどのように観察しているかを考え、目の付けどころやポイントを話し合う。 ①これまでの学習で観察した経験をふり返ったり教師のモデル文を読んだりして、「ていねいにかんさつして、きろくしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	単元 ていねいにかんさつして、きろくしよう アイデア1

アイディア1 学ぶ意欲を高め、学習のゴールをイメージすることが出来る単元設定 主体的な学び

子供たちは生活科の学習などで植物や動物を育て、観察記録文を書く活動を経験してきています。また、一年生の「しらせたいな、見せたいな」では、観察して気付いた特徴を説明する文章を書きました。

そこで、まずこうした観察記録文を読み返し、丁寧に観察することは、成長や特徴の変化に気付くことができるという、観察記録文を書く意義を確かめます。次に教師のモデル文を読み、「かんざつ名人」の観察記録文とはどのようなものなのかに気付かせ、学習のゴールをイメージできるようにします。モデル文に出合わせることで、「名人の書き方のコツを見付けて観察記録文を書いてみたい」という思いをもたせ、学びの意欲が高まるようにします。

「名人になるために書く内容を考えるぞ（名人に一步近付いた）」のように、書き溜めることは名人までの道のりであることを常に意識させ、意欲を持続できるように、子供の優れた作品を掲示するなどして、どこがどのようによいかを認め合うようにします。



アイディア2 質問を通して内容をくわしくする話し合い活動 対話的な学び

前時までに書いておいた「観察して気付いたこと」のメモを基に、ペアで話し合い、観察記録文に書く内容を決めることができるようになります。メモを見ながら友達に話すことで、自分が観察するときどのようなことに注目していたのが明確になるだけでなく、友達から質問されることで、読み手が何をくわしく知りたいのかに気付くことができます。

このとき、聞き手がポイントをおさえた質問ができるように、質問する視点を全体で共有しておきます。その視点が観察時に注意して取材するポイントでもあります。また、会話を通して、「くみしたいな」という比喻表現を使うよさや、より具体的な情報を伝えるよさを実感することができますようにします。

花壇のアサガオがぐんぐん大きくなってきたよ

どのぐらいたの大きくなったの

ミニトマトの花が、星みtainな形をしていたよ

「星みtain」って言うほうが分かりやすいね

くわしくする質問の視点

- ・くわしい数(何個・何枚)
- ・どのぐらいたの大きさ
- ・何色
- ・どんな形(くみtainな形)
- ・どのぐらいたの長さ
- ・触るとどんな感じ
- ・どんな匂い
- ・くみtainな匂い
- ・どんな音
- ・どんな動き
- ・くみtainな動き
- ・以前と違うところはどこ
- ・上(横)から見ると

アイディア3 事柄の順序に沿って、簡単な組立てを考え、書く活動 深い学び

教科書には、観察記録文の基本的な書式と書き方を示す二つの作例が載っています。この作例から、観察記録文を書くときには、単に観察したものを書くのではなく、特に変化が大きかった部分や自分が見付けてうれしかった事柄を取り上げるようにすることが大切であることに気が付くようになります。

文章を書く際には、前時までのメモや話し合いを基に、書きたい内容を短い言葉で付箋に書かせ、それを並べ替えながら、読み手に伝わりやすい簡単な組立てを考えることができるようにします。

また、「くわしくする質問の視点」が観察名人の書き方のポイントになることを確認し、教室に掲示するなどしておきます。継続的に観察記録文を書き続けていくことで、変化の様子がよく分かることを実感させるとともに、友達と読み合わせることで互いの表現の工夫に気付かせ、その後の自分の表現に生かしていきけるようになります。

◎話し合い後の付箋の例

- ・花の形は星みtain
- ・花の色は黄色
- ・花が二つさいた
- ・花は小ゆびぐらいた
- ・花びらはどれもそりかえっていた

◎観察記録文の例

五月十日(火)くもり

ミニトマトに黄色い花が二つさいました。

ミニトマトの花は、わたしの小ゆびぐらいたの大きさを、星みtainな形をしていることが分かりました。よくかんざつしてみると、花びらがどれもそりかえっていることに気がつきました。

たし算のしかたを考えよう

執筆：神奈川県横浜市立山下みどり台小学校教諭 三上 顕
 編集委員：文部科学省教科調査官 笠井健一
 島根県立大学教授 齊藤一弥

年間指導計画

- 4/5月 たし算のしかたを考えよう
長さははかってあらわそう
- 6/7月 100より大きい数をしらべよう
時計を生活に生かさう
- 8/9月 ひっ算のしかたを考えよう
さんかくやしかくの形をしらべよう
- 10/11月 新しい計算を考えよう
九九をつくろう
- 12/1月 1000より大きい数をしらべよう
長い長さははかってあらわそう
- 2/3月 分けた大きさのあらわし方を考えよう
はこの形をしらべよう

本時のねらいと評価規準 (本時3/12時 くり上がりのある2位数のたし算の計算のしかたの考察)

- ねらい** くり上がりのある2位数のたし算の計算のしかたを考え、解決方法同士や式と図を比較して関連付け、既習を用いて説明することができる。
- 評価規準** くり上がりのある2位数のたし算の計算のしかたを、既習を使って考えたり説明したりしている。

もんだい

37 + 25 の計算のしかたを考えよう。

- T：二年生になってから最初のたし算の授業で、一年生の時に学習したたし算をふり返りましたね。一年生の頃のようなたし算を学習してきましたか。
- C：1けた+1けたのたし算を勉強しました。
- C：くり上がりのあるものも勉強しました。
- T：昨日まではどんなたし算を勉強していましたか。

- C：2けた+2けたの計算を勉強しました。
- C：くり上がりはなかったね。
- T：今まで学習したことを使ったら、ほかにもできそうなたし算はありますか。
- C：もっと数が大きくなってでもできそうです。
- C：でも、2けたでくり上がりのあるたし算の勉強はしていません。
- C：1けたでくり上がりができたから、2けたでもできそう。
- T：では、例えば 37 + 25 のようなくり上がりのあるたし算はどのように計算したらいいか考え、説明してみましょう。

学習のねらい | これまで学習したことを使ってくり上がりのある2けた+2けたの計算のしかたを考えよう。

見通し



前の時間でも位に分けて計算したらできたから、今回も位に分けてみよう。(方法の見通し)



ブロックや図で考えたらできそうだな。(方法の見通し)



7 + 5 は12だから、一の位は2になりそうだな。(結果の見通し)

自力解決の様子

A つまづいている子

くり上がった数をどのように処理や表現をしてよいか分からずに困っている。

B 素朴に解いている子

ブロックや位の図など具体物や半具体物を用いて答えを出そうとしている。

C ねらい通りに解いている子

既習を生かして位ごとに分けて計算し、そのしかたの説明を考えている。

学び合いの計画

既習との関連を子供に気付かせたり価値付けたりしながら、学び合いを展開します。本時では筆算の形式にすることを急がず、筆算を使わずとも位ごとに分けて計算すると、くり上がりのない2位数のたし算で答えを簡単に求められたことや、1位数同士のくり上がりのあるたし算は計算でき

たことに気付かせ、解決の見通しをもたせて既習との関連を図っていきます。学び合いを通して、くり上がりがあっても位ごとに分けて計算すればよいことや、既習のくり上がりのある1位数のたし算さえできれば2位数の計算もできることに気付かせ、既習を活用することの価値に触れましょ

う。そうすることで、「3 位数のたし算も同じようにできそうだ」という発展への興味・関心を引き出すこともできます。そのために、式と図を関連付けたり、解決方法同士を比較したりして、丁寧に学び合いを展開していきます。



ノート例

<p>くり上がりのある 2 けた + 2 けたのたし算のしかたを考えよう。</p> <p>〈もんだい〉 37 + 25 の計算のしかたを考えよう。</p> <p>〈自分の考え〉 37 + 25 = 62</p> <p>30 7 20 5 くりやに分けてたします。</p> <p>30 + 20 = 50 7 + 5 = 12 50 + 12 = 62</p>	<p>〈友だちの図〉</p> <p>〈気づいたこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> しきも図もくりやに分けている。 30 + 20 が 3 + 7 になっていて分かりやすい。 7 + 5 ができればよい。一年生のときとおなじだ。 <p>〈かんそう〉</p> <p>くりやに分けたらくり上がりがあってもできました。ほかの数や 3 けたの数でもやってみてください。</p>
---	---

全体発表とそれぞれの考えの関連付け

<p>C 1</p> <p>37 を 30 と 7、25 を 20 と 5 に分けて計算しました。30 と 20 をたして 50、7 と 5 をたして 12 になります。そして、0 と 12 をたして 62 です。</p> <p>37 + 25 = (30 + 20) + (7 + 5) = 62 です。</p>	<p>C 2</p> <p>今まで学習してきたように、ブロックを使って考えました。</p>	<p>C 3</p> <p>図を使って考えました。答えは 62 でした。</p> <p>37 + 25 = 62</p>
--	--	---

* C 2 の発表で答えをはっきりさせた後、C 1 の発表を行う。

T : 37 を 30 と 7 と見たんですね。これは何に分けて計算したということですか。

C : 位に分けました。前の時間と一緒にです。

T : C 3 さんは前の時間に表した図を使ったみたいですね。ブロックの場合と比べてみると、同じところや違いはありますか。

C : 位ごとに分けているのは同じです。

C : ブロックは 10 をそのまま 10 で表しているけど、C 3 さんの図は、十の位を 1 つの●で表しているから違います。

C : C 3 さんのほうが分かりやすく、筆算にも似ています。

T : C 1 さんの式と C 3 さんの図を比べてみると、同じところや違いはありますか。

C : やっぱり位ごとに分けているのは同じです。

C : 30 + 20 が 3 + 2 になっています。

C : でも、10 のまとまりで考えたら同じことだね。

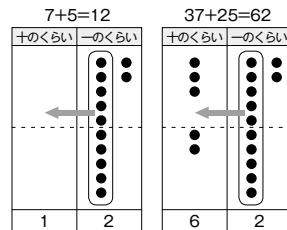
T : 10 のまとまりで見ると、30 + 20 も 3 + 2 と見られるんですね。では、C 3 さんの図を、7 + 5 の場合の図と比べてみるとどうですか。

C : 一の位でやっていることは同じです。ただ 30 と 20 がくっついただけです。

T : 位ごとに分けて考えれば、37 + 25 と 7 + 5 は、やっていることは同じですね。

C : だったら、1 けたのたし算ができれば、ほかの数でもできそうです。

C : 3 けたでも、できそうな気がします。



<p>評価問題</p> <p>23 + 68 の計算のしかたを考えさせよう。</p>	<p>子供に期待する解答の具体例</p> <p>23 を 20 と 3 に分けます。68 を 60 と 8 に分けます。位ごとにたし算します。20 + 60 は 80 で、3 + 8 は 11 なので、80 と 11 をたして 91 になります。</p>	<p>本時の評価基準を達成した子供の具体の姿</p> <p>位ごとに分けて計算のしかたを考え、説明している。</p>
---	--	---

感想例



位に分けて計算すると、くり上がりがあってもできました。1 けたのくり上がりのたし算ができれば、ほかの数でも 3 けたになってもたし算ができそうで、やってみたいです。

長さをはかって あらわそう

執筆：神奈川県横浜市立青葉台小学校主幹教諭 黒木正人
編集委員：文部科学省教科調査官 笠井健一
島根県立大学教授 齊藤一弥

年間指導計画

- 4/5月 たし算のしかたを考えよう
長さをはかってあらわそう
- 6/7月 100より大きい数をしらべよう
時計を生活に生かそう
- 8/9月 ひっ算のしかたを考えよう
さんかくやしかくの形をしらべよう
- 10/11月 新しい計算を考えよう
九九をつくろう
- 12/1月 1000より大きい数をしらべよう
長い長さをはかってあらわそう
- 2/3月 分けた大きさのあらわし方を考えよう
はこの形をしらべよう

本時のねらいと評価規準 (本時2 / 9時)

- ねらい** 自分の足の大きさを測る活動を通して、無意識に使っていた「センチメートル」という言葉の意味を理解する。
- 評価規準** 形の特徴に着目し、どこを長さで規定するか考えて測定することができる。

もんだい

自分の足の長さはどのくらいでしょう。

- * 子供がそれぞれ長さを言う。
- C：上履きのサイズを見たら、みんな分かるよ。
- T：上履きのサイズと足の長さは同じですか。
- C：上履きよりは小さいと思います。
- C：長さを知りたい。
- C：測ってみたい。
- T：では、自分の足を測ってみましょう。
- C：足の長さってどこのことだろう。
- C：横ではなさそうだから、縦かな。

- C：上履きの縦の長さがサイズになっていると思います。
- C：足の長さも縦の長さを測ったらよいと思います。
- T：足の縦の長さを測るといってよいですか。
- C：はい。
- C：でも足は丸くて、まっすぐじゃないから測りにくいな。
- C：くつ下を脱いだら測りやすいと思います。
- C：ものさしで測ればまっすぐになるよ。
- C：つま先とかかとをまっすぐに測ればよいと思います。
- T：足の縦の長さでどこからどこまでなのかを決めて、その測り方を考えてみましょう。

学習のねらい | どこからどこまでが長さなのかきめて、はかり方を考えよう。

見通し



ものさしに足を当て
たらできると思うよ。



線を引くと測るところが
分かりやすくなるはずだ。

自力解決の様子

A つまずいている子
長さとする部分が見
いだせず、測るこ
とができない。

B 素朴に解いている子
足を持ち上げて、も
のさしを足の裏に当
てて測っている。



C ねらい通りに解いている子
足の形を紙に写して、
両端の2点を決め、
測っている。



学び合いの計画

子供は量の大小判断を、日常生活のなかで無自覚的に行ってきたりしています。測定の活動では、無自覚的に行っていたことを、自覚してできるようにすることが大切です。一年生では、アサガオの茎の長さのように一見測りにくいものを、紙テープ

などを用いて間接的に測ることを経験しています。また、葉の大きさを測った経験がある場合には、本時の学習のように長さを規定している経験があると考えられるので、想起できるようにしましょう。本時の測定の活動では、自分の足の長さを対

象とすることにより、子供が測定したいという思いをもちやすいだけでなく、体を用いた量感を豊かにすることができるようにもしましょう。

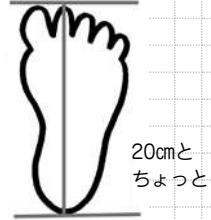
測定する対象の特徴を捉えて、測定する2点の

線分を決めることで、長さを比べたり測定できたりできるようになることを子供自身が気付くプロセスが大事になります。



ノート例

<p>〈もんだい〉</p> <p>自分の足の長さはどのくらいでしょう。</p> <p>21cm(上ばき)</p> <p>本当かどうか自分の足をはかってみよう。</p> <p>足のたて? よこ?</p> <p>まっすぐはかりたい。</p> <p>まっすぐはどこからどここの長さかな。</p> <p>① 紙に足をうつす。</p> <p>② ものさしではかる。</p> <p>③ 1番はしにせんを引く。</p> <p>④ (まっすぐ)せんを引く。</p> <p>⑤ ものさしではかる。</p>	<p>〈ふりかえり〉</p> <p>まっすぐの形ではなくても、高さははかることができました。</p> <p>はかるときは、どこからどこまでが長さなのかを考えないといけないうことに気がつきました。</p> <p>長さのりょうはしが決まったら、自分で線を引くと長さははかりやすくなりました。でも、20cmぴったりではなかったから、あと少しのところもはかってみたいです。</p>
---	--



全体発表とそれぞれの考えの関連付け

- T: どこからどこまでを測ったらよいのか分かりましたか。
- C: 紙に足を乗せて、鉛筆で足形をとったら測れました。
- C: どこからどこまで測ったの。
- C: 指やかかとの丸いところはどうやって測ったらよいのか、困りました。
- T: 丸くなってピンとできないときには、どうやって測りましたか。
- C: つま先とかかとの間の一番長いところを見付けて、線でつないだら測ることができました。



- C: 丸いところはそのままだと測れないので、一番長いところに線を引きました。
- C: それをつま先とかかとの両方にやって、身長を測るときみたいにしました。
- C: 上と下と測る長さの3本の線だね。
- T: 2つのやり方が測りやすいようですが、どちらのやり方も似ていますか。
- C: はい。線を引くと、測りたい長さが見えてくるところが似ています。
- C: 端が決まると線が引けて測れました。



学習のまとめ

線分を与えられなくても、どこに、どのように着目して長さを捉えていったのかを、子供自身が気付くようにする。直線の見えない形の測定方法について考えたことを価値付ける。

<p>評価問題</p> <p>手のひらの長さは、どのようにはかりますか。</p>	<p>子供に期待する解答の具体例</p> <p>手のひらから任意の2点を決め、線分を見いだして、測定しようとしている。</p>	<p>本時の評価基準を達成した子供の具体の姿</p> <p>ものの形から直線を見だし、自分で長さを決めて測ることができる。</p>
--	---	---

感想例

まっすぐの形ではなくても、長さを測ることができました。測るときには、どこからどこまでが長さなのかを考えないといけないうことに気がつきました。長さの両端が決まったら、自分で線を引くと長さを測りやすくなりました。でも、20cmぴったりではなかったから、あと少しのところも測ってみたいです。

どんな二年生になろうかな

執筆：愛知県岡崎市立愛宕小学校教諭
編集委員：文部科学省教科調査官
文部科学省教科調査官／愛知淑徳大学准教授
愛知県豊橋市立豊小学校校長

柴田亜由美
渋谷一典
加藤 智
稲田あけみ

年間指導計画

- 4/5月 どんな二年生になろうかな
おいしくなあれ！ ぼく・わたしの野菜
- 6/7月 町ですてきを見つけよう
めざせ 生きもの につっここマスター
- 8/9月 わくわくおもちゃ大作戦
公園のヒミツを探れ！
- 10/11月 冬野菜を育てよう～大根マスターにチャレンジ～
いいところ見つけた ぼく・わたしの町
- 12/1月 はっけんわくわく 町のおたから
たいせつに育てるよ！ 小さな友だちモルちゃん
- 2/3月 みつけよう すてきなじぶん
ありがとうをとどけたいな

期待する子供の姿

知識及び技能の基礎

一年生と関わる活動を通して、1年前の自分をふり返り、周りの人々の支えがあって成長できたことに気付いている。

思考力、判断力、表現力等の基礎

一年生と関わる活動を通して、一年生のことを想像しながら、自分でできることを考えることができる。

学びに向かう力、人間性等

一年生と関わる活動を通して、二年生に進級した喜びを感じ、これからの生活への期待をもって意欲的に生活しようとする。

単元の流れ（6時間）



もう、学校ではお兄さん、お姉さんだね。どんな二年生になりたいかな。



一年生に優しくしたいな。



学校の中を紹介してあげようよ。

学習の流れ

○どんな二年生になろうかな（1時間）

一年生にどんなことをしてあげたいかな。

学校を案内してあげたい。

一緒に遊びたい。

プレゼントを渡してあげたいな。

○学校案内の計画を立てよう（1時間）

どうしたら、安全に案内できるかな。

密にならないようにしたいらいいよ。

ビデオで案内するのはどうかな。

○学校紹介ビデオを作ろう（2時間）

一年生に何を紹介してあげようかな。

音楽室には、いろいろな楽器があるよ。

保健室の先生は優しいよ。

職員室にはたくさん先生の先生がいるよ。

もっとにっこして言ってね。



ここは、放送室です。マイクがあります。何をするといいでしょう。

○一年生に喜んでもらえるか、考えよう（1時間）

探検したくなるクイズを入れたらいいと思う。

楽器だけでなく部屋全体も撮ったほうが分かりやすいよ。



もっと一年生が使う場所を紹介した方がいいよね。

一年生が喜んでくれるかな。

○学校紹介ビデオをプレゼントしよう（1時間）

一年生は喜んでくれたかな。

喜んでくれてうれしい。

エアタッチであいさつをしたり、マスクをしてそっと声をかけたりして、これからも優しくしたいな。

評価規準等

態 一年生のためにできることをしたいという思いをもって、一年生に関わろうとしている。

思 安全に学校紹介をする方法を選んでいく。

知 これまでの学校生活をふり返り、学校での生活はさまざまな人や施設と関わっていることが分かっている。

思 自分たちの撮影したビデオが、施設の特徴や学校を支えている人々の存在が分かるようになってきているか、一年生の立場になって考えている。

態 これからも上級生として一年生に優しく関わり、楽しく遊んで生活しようとしている。

※評価規準等の **知** = 知識・技能、**思** = 思考・判断・表現、**態** = 主体的に学習に取り組む態度の観点を示しています。

活動のポイント1 子供の思いや願いを十分に引き出しましょう。

生活科の学習は、子供の思いや願いを達成できるように組んでいくことが大切です。進級し、一つ上のお兄さん、お姉さんになった誇らしい気持ちを共有し、1年間の生活科の学習の見通しを立てていきましょう。

○希望で胸ふくらむ1年間の見通しを立てよう

・二年生のめあてカードを作ろう（特別活動）

・二年生の生活科でどんなことがしたいかな

勉強も運動もがんばりたいな。



すてきな二年生になりたいな。



いろいろな野菜を育てたいな。生き物を飼いたいな。



町探検に行きたいな。おもちゃを作ってみたいな。



子供が新しい教科書を見たり、昨年度の二年生が活動している写真を見たりする時間を設けると見通しが立ちます。子供の「したい!」「やりたい!」思いをふくらませましょう。

※感染症予防をしながらできることを子供と考えていきましょう。



活動のポイント2 ICTを積極的に活用しましょう。

タブレット端末を使えば、ビデオ録画も簡単に行えます。

○タブレット端末の活用

- ・タブレット端末を使えば、二年生でも容易にビデオを撮影することができます。
- ・複数の子供が撮影することで、子供同士の関わり合いが生まれます。



○校内の先生方への協力の依頼

- ・あらかじめ、撮影の日時、場所を校内の先生に伝えておき、そっと見守ってもらえるよう依頼しておきましょう。

評価のポイント この単元で特に重点をおきたい資質・能力を上げています。

(思考・判断・表現)

一年生と関わる活動を通して、一年生のことを想像しながら、自分でできることを考えることができる。

- ・学習カードの記述だけでなく、つぶやきや行動を見とって評価していきましょう。

●こんな場面で見とりましょう。

○見付ける姿

自分が一年生の頃のことを思い出して、一年生が知りたいことを見付けている。



学校には担任の先生以外にたくさんの先生がいるね。

○比べる姿

どの教室や先生を撮影すると一年生が喜んでくれるか、比べながら考えている。



○たとえる姿

一年生が知っていることにたとえて表現している。



体育館は、お遊戯室みたいところだよ。だけど、お遊戯室よりも広いよ。

○試す姿

撮影しては、映り方を試している。



あれ、顔が暗くなっちゃうから、もっとこっちでしゃべってみて。

○見通す姿

全体の撮影の見通しを立てている。



お部屋全体を映してから、話すといいよ。

○工夫する姿

うまく伝わるように、表現のしかたを工夫している。



大事なことは、もっとゆっくり言ったほうがいいよ。お部屋の名前を紙に書いて持とうかな。

※学習活動の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症に関わる各自治体の対応方針を踏まえるなど、子供の安全の確保に向けて十分配慮する必要があります。

おいしくなあれ！ ぼく・わたしの野菜

執筆：愛知県豊橋市立牛川小学校教諭
編集委員：文部科学省教科調査官
文部科学省教科調査官／愛知淑徳大学准教授
愛知県豊橋市立豊小学校校長

朝倉有利子
渋谷一典
加藤 智
稲田あけみ

年間指導計画

- 4/5月 どんな二年生になろうかな
おいしくなあれ！ ぼく・わたしの野菜
- 6/7月 町ですてきを見つけよう
めげせ 生きもの につっここマスター
- 8/9月 わくわくおもちゃ大作戦
公園のヒミツを探れ！
- 10/11月 冬野菜を育てよう～大根マスターにチャレンジ～
いいとこ見つけた ぼく・わたしの町
- 12/1月 はっけんわくわく 町のおたから
たいせつに育てるよ！ 小さな友だちモルちゃん
- 2/3月 みつけよう すてきなじぶん
ありがとうをとどけたいな

期待する子供の姿

知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
野菜を栽培する活動を通して、野菜が生命をもっていることや成長していることに気付く。	野菜を栽培する活動を通して、それぞれの野菜の成長の様子や世話の方法に関心をもって働きかけることができる。	野菜を栽培する活動を通して、野菜への親しみを持ち、大切に育てようとする。

単元の流れ (16 時間)

単元に入る前に、野菜を料理したり食べたりした絵日記や作文を取り上げ、栽培への意欲を高めておきます。



一年生では、どんな植物を育てましたか。

アサガオを育てました。毎日、お世話を
して、花が咲いたときうれしかったな。



二年生では、野菜を育ててみたいな。

学習の流れ

①どんな野菜を育てようかな (2時間)

ナスが育てやすいって、おばあちゃんが言ってたよ。

甘いミニトマトを育てて、トマトが好きなお母さんに食べてもらいたいな。



・苗は、お店に出かけたり、売りに来てもらったりして、自分で選ぶ。

②こんにちは、私の苗ちゃん (2時間)

植木鉢の真ん中に植える
といいだね。



上手に植えたね。

③苗ちゃんの世話をしよう (6時間)

葉っぱは、トマトのにおいがあるよ。



これで安心。ぐんぐん伸びるかな。



④大変だ！苗ちゃんを助けよう (2時間)

私の葉っぱは、虫がいっぱい。どうしよう。



僕の葉っぱは穴が開いちゃった。野菜名人に聞いてみようよ。

虫が来なくなるにはどうしたらいいですか。



⑤野菜を収穫しよう (2時間)

このキュウリは、お母さんにプレゼントしよう。

たくさん採れたから、みんなで食べたいね。

どの野菜も、とっても大きく育ったね。

⑥野菜アルバムを作ろう (2時間)

トマトがいっぱいできて、うれしかったな。



収穫できたのは、がんばって育てたからだね。

評価規準等

【思】 野菜の特徴を本で調べたり、親しい人に聞いたりして、育ててみたい野菜を選んだり決めたりしている。

【態】 大切に育てたいという思いをもって、植木鉢に土を入れたり、苗を植えたりしている。

【知】 野菜にも自分と同じ生命があり、成長していることに気付いている。

【思】 困ったことを友達と相談したり、野菜名人に聞いたりして、野菜の立場に立って世話の方法を見直している。

【態】 自分が育てた野菜に親しみや愛着をもったり、収穫の喜びを味わったりしている。

【知】 野菜の世話が上手にできるようになった自分自身の成長に気付いている。

※評価規準等の【知】=知識・技能、【思】=思考・判断・表現、【態】=主体的に学習に取り組む態度の観点を示しています。

活動のポイント1 栽培活動への意欲が継続する工夫をしましょう。

○繰り返し関われる場所

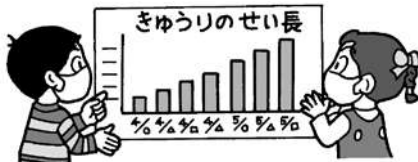
栽培場所は、身近な場所にしましょう。例えば、登校時に通る通路沿いに植木鉢を置いたり、教室から見える花壇に植えたりすれば、ちょっとした変化に気がやすく、自然と関わりも増えます。

今日も、僕のミニトマトさんは、元気かな。



○観察カードなどの掲示

観察は、成長の様子を絵に描いたり、写真に撮ったりする方法以外にも、茎やつるの長さを記録することもおすすめです。観察時に紙テープを何本か用意しておき、茎やつると同じ長さに切って観察カードと一緒に掲示します。毎回伸びていく記録を見て、子供たちは観察が楽しみになります。



キュウリの背がまた伸びたね。

活動のポイント2 さまざまな人との関わりがもてる活動にしましょう。

長い栽培活動の間には、「人」と関わるチャンスが何度もあります。まずは、同じ野菜を育てている子供同士でグループをつくります。助け合いながら活動することで、個々では気付かなかったことにも目を向けられるようになります。また、野菜ごとの成長の違いや特徴について、他のグループと意見交換することで、気付くこともあります。そして、苗の植え付けや虫害・病気への対処には、地域で農家を営んでいる方や、園芸店の人、子供たちの家族で野菜を作っている人など、「野菜名人」にアドバイスをしてもらいましょう。成長過程で何度か来てもらい、励ましてもらったり、ほめてもらったりすることで、子供たちの自信にもつながります。他にも、収穫後に調理をして食べる時には、学習ボランティアや保護者に手伝ってもらうことも考えられます。

このようにさまざまな人と関わり、対話を重ねることで、子供たちは、自分の野菜により積極的に働きかけるようになり、自分の野菜への愛着を深めていきます。



評価のポイント 思考力、判断力、表現力等の基礎を養うために。

○書くことが苦手な子にはこんな支援を

- 諸感覚（目、耳、鼻、手、心など）を書き入れた学習カードを用意する。
- 写真や動画で記録を残す。

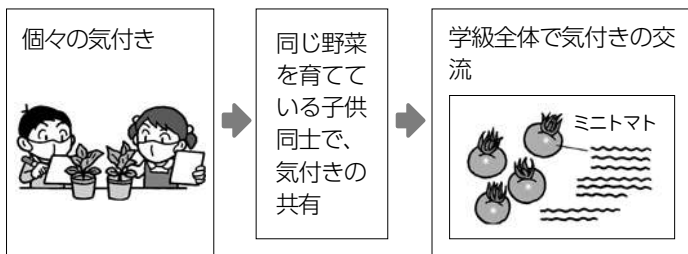
• 対話を通した気付きの自覚。

何を書けばいいのかなあ。

この前と比べて変わったところはどこかな。



○観察や世話を通して得た気付きを全体で交流しましょう



- 学級全体での交流では、気付きを視点ごとに整理しながら板書していきます。子供たちはそれを見比べ、他の野菜との共通点や相違点に気がきます。共通点として、花の咲いた後に実ができてきていることなどに気付くでしょう。その新たな気付きをその後の世話に生かしているか、見とることが大切です。

いろいろなコースでスピードスターをめざそう

走・跳の運動遊び ～走の運動遊び～

執筆：滋賀県大津市立瀬田小学校教諭 杉澤大輝
 編集委員：国立教育政策研究所教育課程調査官 塩見英樹
 滋賀県大津市立瀬田南小学校教頭 内藤康司

年間指導計画

- 4/5月 走・跳の運動遊び(走の運動遊び)
 器械・器具を使つての運動遊び(固定施設)
- 6/7月 器械・器具を使つての運動遊び(鉄棒)
 水遊び
- 8/9月 体つくりの運動遊び(体ほぐし)
 走・跳の運動遊び(跳の運動遊び)
- 10/11月 ゲーム(鬼遊び)
 器械・器具を使つての運動遊び(跳び箱)
- 12/1月 ゲーム(ボールゲーム)
 表現リズム遊び
- 2/3月 器械・器具を使つての運動遊び(マット)
 ゲーム(ボールゲーム)

授業づくりのポイント

走の運動遊びは、友達と競走したり、距離や方向を決めて走ったりするなかで、走る楽しさに触れることが大切です。そのため、下の図のような場でいろいろな方向に走ったり、スタートの姿勢を変えたり、走り方を変えたりするなかで、楽しみながら走る動きを身に付けることをめざします。

単元前半は1対1で競走する運動遊びに取り組み、

いろいろなコースでスピードを調節して走ることを楽しみます。単元後半はリレー形式にして、今まで経験したコースを組み合わせたり、工夫を加えたりして競走することを楽しみます。

友達を応援することや友達のよい動きを見付けられるように声かけすることも大切にしましょう。

楽しもう ～規則を守って、いろいろな走り方を楽しもう～

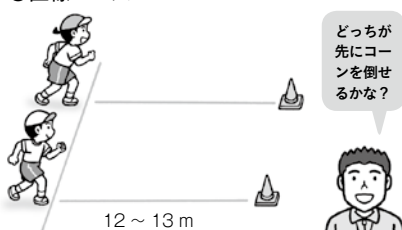
〈楽しもう〉では、直線走るだけでなく、ぐねぐねしたコースを走ったりカーブしたコースを走ったりして、いろいろな走り方を体験します。いろいろな方向に走るなかでコースに合わせて体の向きを切り返したり、体を傾けて走ったりする動きを身に付けることをめざしましょう。

めざしましょう。

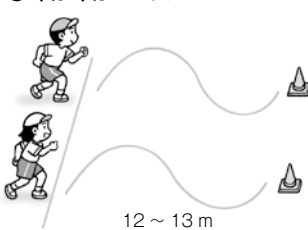
走るコースが分かりやすいように線を引く支援も大切です。また、スタートの姿勢を変えたり、走り方を指定したりすることで動きに変化を加えて、いろいろな走り方を楽しめるようにしていきましょう。

コーン早倒し対決

●直線コース



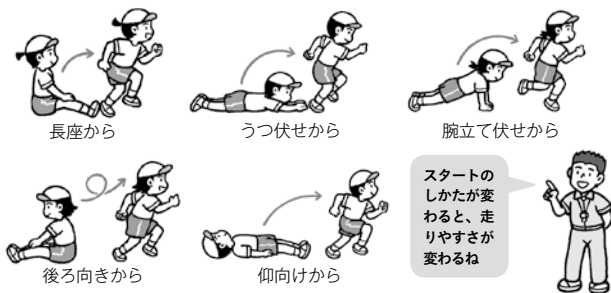
●ぐねぐねコース



●カーブコース



●スタート姿勢の工夫



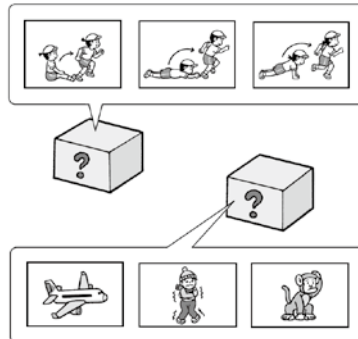
●走り方の工夫



【もうひと工夫】

●カードで対決




運動に慣れてきたら、姿勢や走り方のカードを用いて、いろいろな動きを組み合わせ競走できるようにしていきましょう。



※新型コロナウイルス感染症防止のため、子供に授業前後の手洗いを徹底するように指導しましょう。活動中は、地域の観戦レベルに応じて、適切な身体的距離を確保するようにしましょう。

単元計画

～前半はいろいろなコースで競走することを楽しみ、後半はグループで競走することを楽しむ単元計画としています～

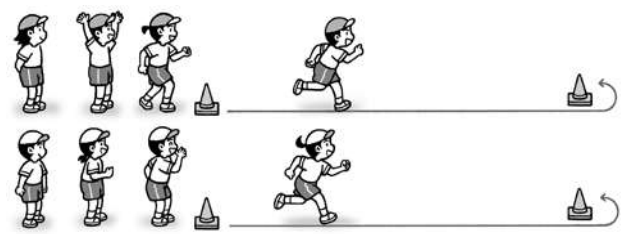
時間	1	2	3	4	5	6
学習課題	行い方を知って、いろいろなコースを走ってみよう	いろいろな姿勢でスタートしよう	いろいろなものになりきって走ってみよう	行い方を知って、みんなで競争しよう	いろいろなコースをみんなで競走しよう	
0分	●オリエンテーション 学習の進め方 ・準備のしかた ・行い方の説明 ・安全への指導 ・新型コロナウイルス対策 (間隔をあけて) (決まった対戦相手で) ・片付けのしかた ●コーン早倒し対決① ・直線コース ・ぐねぐねコース ・カーブコース		●コーン早倒し対決① (直線、ぐねぐね、カーブ) 上手な人の動きを真似るといいね。 誰が上手にできているかな？ 		 どの対決でもスピードを落とさないで走るにはどうするといいか？ ●折り返しリレー 友達に応援してもらえると励まされるね。 	
45分	●ふり返り			●ふり返り		
	運動を楽しもう			もっと運動を楽しもう		

もっと楽しもう ～チームで走って競走を楽しもう～

〈もっと楽しもう〉では、チームを作り、リレー形式で競走します。リレーに慣れてきたら〈楽しもう〉で走ったコースを組み合わせた場を作り、〈楽しもう〉で見つけた走り方を生かしてリレーが楽しめるようにしましょう。また、対戦相手のコースの組み合わせ

せを「コース作りボード」を使ってチームで決め、対戦相手の挑戦意欲を高めていきましょう。チームで競走するときには友達に応援することや規則を守ることの大切さも併せて指導していくようにしましょう。

折り返しリレー



- 【行い方】**
- ・1チーム4～5人。
 - ・スタートのコーンをタッチしたら次の走者がスタート。
 - ・アンカーが列の一番後ろに並んで座ったらゴール。



レベルアップ折り返しリレー



新型コロナウイルス感染症対策として、以下の例が考えられます。

- チームで並んでいるときは、適切な間隔を空けて並ぶようにする。
- 対戦するときには、決まった相手と競走するようにする。

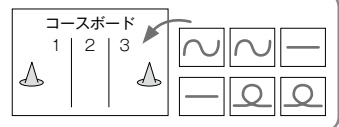
友達に走っているときは応援しようね



対戦チームが作ったコースに挑戦してみよう！

かわり思考ツール コース作りボード

対戦相手のコースを考えたときには、「コース作りボード」を使って、「1」「2」「3」の場所に下のカードからコースを選び、貼っていきます。このようにすることで、友達と意見を出し合いコース選びを行えるようになります。



忍者ランドで、忍者名人になろう！

器械・器具を使っの運動遊び ～固定施設～

執筆：滋賀県大津市立平野小学校教諭 岡山 駿
 編集委員：国立教育政策研究所教育課程調査官 塩見英樹
 滋賀県大津市立瀬田南小学校教頭 内藤康司

年間指導計画

- 4/5月 走・跳の運動遊び(走の運動遊び)
器械・器具を使っの運動遊び(固定施設)
- 6/7月 器械・器具を使っの運動遊び(鉄棒)
水遊び
- 8/9月 体つくりの運動遊び(体ほぐし)
走・跳の運動遊び(跳の運動遊び)
- 10/11月 ゲーム(鬼遊び)
器械・器具を使っの運動遊び(跳び箱)
- 12/1月 ゲーム(ボールゲーム)
表現リズム遊び
- 2/3月 器械・器具を使っの運動遊び(マット)
ゲーム(ボールゲーム)

授業づくりのポイント

「器械・器具を使っの運動遊び」では、幼児期に経験した運動遊びを生かしてさまざまな動きに挑戦し、それらができる楽しさに触れながら中学年からの器械運動に結びつく基本的な動きや技能を身に付けていくことが大切です。

そこで、単元前半では、忍者になってさまざまな固定施設をローテーションし、「回転」「支持」「逆さ

の姿勢」「ぶら下がり」「振動」「手足での移動」などの基本的な動きや技能を楽しみながら身に付けられるようにし、単元後半では、修行で身に付けたことを生かして友達と忍者大会を楽しめるようにしていきます。また、単元を通して友達の良い動きを見付けたり伝えたりしながら、協力して学習していくことを大切にしていきます。

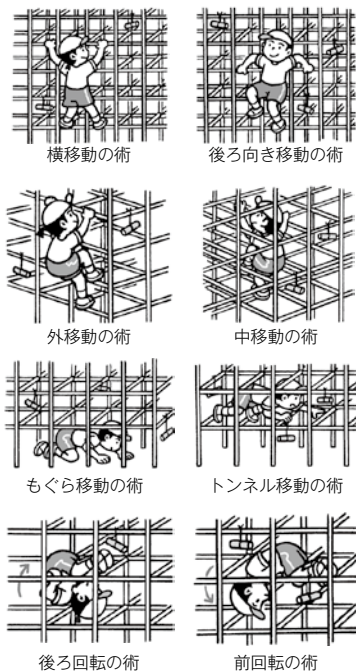
楽しむ ～さまざまな場で、楽しみながら動きや技能を身に付けよう～

「修行タイム」では、サーキット形式でさまざまな固定施設を使っ、「支持やぶら下がり」「振動」「手足での移動」「逆さ姿勢」「回転」など、子供がふだんの生活では味わうことのできない動きを身に付けられるようにします。ここでは子供が夢中になって運動遊びに取り組め

るように、「〇〇の術」という設定で、いろいろな高さ

にぶら下がっている巻物に触れられるようにします。一つ一つの動きの出来栄にこだわらず、たくさんの動きを楽しく経験できるように、意欲的に取り組んでいる子供の姿をほめていきましょう。

お城(ジャングルジム) 修行の場の例示

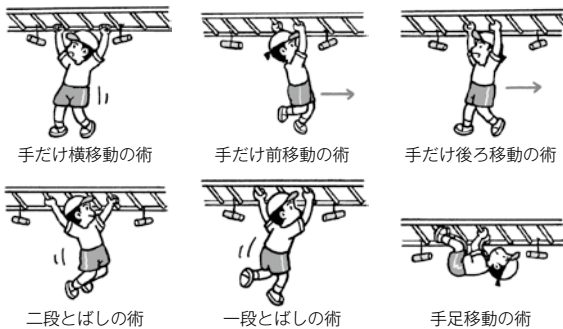


登り下りする際には、手や足を使って必ず二点以上で体を支えるようにしましょう。またスピードを競うことは、落下や衝突につながることも考えられるので、やめましょう。

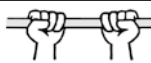


- ジャングルジムや雲梯、登り棒や地面など、いろいろな場所に巻物のイラストを貼ったり吊ったりして、手や足でゲットできるようにしておきましょう。
- 登り棒はタオルやハチマキなどを巻いて節を作っておくと誰でも登りやすくなります。一番上には鈴を付けておいて、到達したら鳴らせる工夫も面白いですね。

雲梯修行の場の例示



安全な握り方で体をしっかりと支えるようにしましょう。



登り棒修行の場の例示



衝突の危険性があるので1本の登り棒を2人以上で同時に使用しないようにしましょう。



※雨が降った後など、遊具が濡れている状態で使用すると手や足が滑る危険があるので、確認するようにしましょう。また、雲梯や登り棒の下にマットを敷くなど、安全を確保できるようにしましょう。

単元計画

～前半はさまざまな場でたくさんの動きや技能を楽しみながら身に付け、後半は友達と忍者大会を楽しもう～

時間	1	2	3	4
学習課題	忍者学校のおきてを守ろう	忍術修行をしてレベルアップ	忍者大会に向けて仲間と練習	忍者大会に参加しよう
0分 ↓ 45分	準備運動・きまり、安全な使い方の確認			
	学習課題を確かめよう			
	<p>●オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習内容を知る きまりを知る 安全な固定施設の使い方を知る <p>●準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> 軽快な音楽を聴きながら、楽しくストレッチに取り組む。 <p>●学習課題を確かめよう</p> <p>順番やきまりを守り、安全に気を付けながら一つ一つの術を確認しよう</p> <p>●修行の安全・きまり確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ジャングルジム・雲梯・登り棒の安全な行い方を確認しながら運動に取り組む。(全員一緒に) <p>活動はすべてローテーションで行い、合図で移動するようにします。</p>	<p>たくさん修行して、巻物をゲットしよう</p> <p>●修行タイム①</p> <p>ローテーションしながら、たくさんの施設でたくさんの動きに取り組めるようにしましょう。</p> <p>●お手本忍者タイム</p> <p>楽しみながら、安全にたくさんの場でいろいろな動きをしている子供の姿を紹介。</p> <p>●修行タイム②</p> <p>お手本の動きを参考に、安全により多くの動きをしている子供をほめながらたくさんの動きに取り組めるようにしましょう。</p>	<p>身に付けた術を生かして友達と練習しよう</p> <p>●修行タイム</p> <p>●忍者大会練習①</p> <p>行い方を理解し、より多くの動きに取り組めるようにしましょう。</p> <p>●お手本忍者タイム</p> <p>友達同士で声をかけ合って動きを身に付けようとしている子供を紹介。</p> <p>●忍者大会練習②</p> <p>友達と協力して、動き方に注意しながら多くの動きに取り組めるようにしましょう。</p>	<p>友達と協力して、忍者大会を楽しもう</p> <p>●修行タイム</p> <p>●忍者大会①</p> <p>練習で身に付けたいろいろな動きを生かして、楽しみながら決まった相手と対戦できるようにしましょう。</p> <p>●お手本忍者タイム</p> <p>いろいろな動きを使ってゲームを楽しんでいる子供の姿を紹介。</p> <p>●忍者大会②</p> <p>①で取り組んでいない動きを中心に、より多くの動きで忍者大会を楽しめるようにしましょう。</p>
	●ふり返り			
<p>おきて(順番やきまり)を守って安全に運動に取り組むことができたかな</p>	<p>〇〇の場ではどんな動きの修行に挑戦できたかな</p>	<p>〇〇の場ではどんなことに気を付けて動きに取り組んだかな</p>	<p>どんなことを楽しんで忍者大会に参加できたかな</p>	
運動を楽しもう		もっと運動を楽しもう		


もっと楽しもう ～身に付けたことを使って友達と忍者大会を楽しもう～

単元後半では、〈楽しもう〉で身に付けたことを生かして友達と忍者大会を楽しめるようにします。はじめは決まったペアの友達と協力して練習をするようにします。ここではペアで動き方について教え合ったり協力したりしている姿を中心に称賛の言葉がけを行い

ましょう。忍者大会本番では、決まった対戦相手と楽しみます。いろいろな術に取り組み応援し合う姿や、より難しい動きに挑戦している姿、友達と楽しんでる姿を全体の場で紹介し、よい動きを全員で共有できるようにしましょう。

ジャングルジム

●逆さの術じゃんけん ●いろいろな移動の術発表



3回勝ったら勝ちだよ

次は横移動の術だ

中移動の術

外移動の術だ

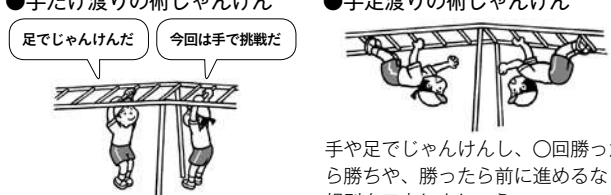
交互にいろいろな移動の術を使って、登り下りしたり、周りや中を移動したりします。

かかわり思考タイム
お手本忍者タイム

「お手本忍者タイム」では、その時間のねらいに合った動きをしている子供を「忍者名人」として紹介し、学級全体でよい動きの共有ができますようにします。

雲梯

●手だけ渡りの術じゃんけん ●手足渡りの術じゃんけん



足でじゃんけんだ

今回は手で挑戦だ

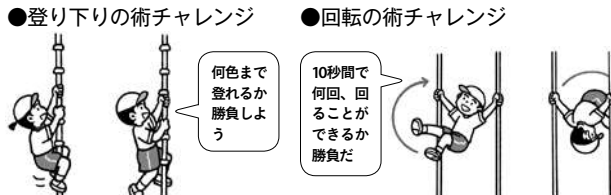
手や足でじゃんけんし、〇回勝ったら勝ちや、勝ったら前に進めるなど規則を工夫しましょう。

授業を行う際には、地域の感染状況に応じて、以下の新型コロナウイルス感染症対策が考えられます。

- 授業前後の手洗いを徹底すること(特に授業開始時の手洗いは、しっかりと手を拭くようにします)。
- 決まった相手と対戦すること。
- 体の接触がないようにすること。
- 子供同士が近接する運動遊びは活動時間の1/3程度とすること。
- 活動中には不用意に大声を出さないようにすること。
- 集合・整列時の子供の適切な距離を確保すること。 など

登り棒

●登り下りの術チャレンジ ●回転の術チャレンジ



何色まで登れるか勝負しよう

10秒間で何回、回ることができるか勝負だ